R5 年度「学校診断調査」集計結果

(R5 年度「学校だより」に掲載したものと同じものです。)

学校診断調査から～学校診断集計結果のご報告

皆様からご協力いただいた、学校診断調査の集計結果をご報告いたします。「学習」と「学校生活」の結果についてお伝えいたします。集計及び分析は、教務主任がいたしました。まず、全体的な傾向としては、本校学校教育が肯定的に評価されているということです。一方で、少数ではあっても、ネガティブな回答は貴重な意見として受け止め、改善点の視点として活かしていきたいと思えます。

それでは、両項目についてお伝えいたします。

◇学び（学習）について

2 授業はわかりやすい。				
生徒	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	27.0%	66.4%	5.9%	0.7%
2 学校は、わかりやすい授業を行っている。				
保護者	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	5.9%	69.8%	10.6%	0.8%
2 教材研究や生徒の実態把握、指導方法の工夫・改善などを通して「わかる授業」に努めている。				
教職員	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%

4 自分から進んで家庭学習をしている。				
生徒	している	まあまあしている	あまりしていない	していない
	25.1%	53.4%	19.5%	2.0%
4 子どもは、宿題や課題などにきちんと取り組んでいる。				
保護者	している	まあまあしている	あまりしていない	していない
	38.0%	47.5%	10.6%	3.9%
4 家庭学習の充実を図るための指導を行っている。				
教職員	している	まあまあしている	あまりしていない	していない
	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%

3 先生たちは、生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる。				
生徒	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	43.0%	54.1%	2.9%	0.0%
3 学校は、子どもの意欲や努力を適切・公平に評価している。				
保護者	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	36.1%	53.7%	3.1%	1.6%
3 生徒の意欲や努力を適切・公平に評価し、指導と評価が一体になるように、評価を生かした指導の改善を行っている。				
教職員	強く思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%

今年度は「リーディングDX事業推進校」として、学習における ICT 端末の活用をこれまで以上に図った。クラウド環境を活かした協働的な学習、デジタル教科などのツール利用による個別最適に学ぶ機会、また、生徒の選択による複線型の授業実践を意識してきた。また、支援が必要な生徒のためのサポートルームや、ふれあい教室などを利用した個に対応しつつ連続的な学びの場を確保してきた。

以下に示すアンケート結果を見ても、“授業のわかりやすさ”に対する質問項目で、生徒のポジティブ回答が 93.5%と高い数値で示されている。また、全国学力学習状況調査（3年生）の結果を見ても、国語、数学、英語、いずれの教科も全国や県の平均正答率を大きく上回っている。県学力把握調査（2年）も同様に、国語、数学、英語いずれも全国、県の平均正答率を上回っている。日頃の学びの成果は1回1回の授業の積み重ねによるものと考え、本校生徒の規範意識の高さによる授業規律の確保、また、日頃の教職員との信頼関係の構築が学びを促進しているとも考えられる。

一方で、“家庭学習”に関する質問項目への生徒のポジティブ回答が78.5%とすべての回答項目の中で最も低い数値を示している。継続的に自主学習の取り組みを行っているが、今後の改善点にしていく必要がある。授業以外の学びこそ、生徒個々の違いが明確になることを考え、学習の個性化を高める工夫として、ICT 端末を通して提供されている、学習コンテンツの活用や、学習方法に複数のメディアやスキルを設ける工夫が考えられる。

(裏面へ)

生徒	1 学校は楽しい。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	
保護者	1 子どもは、仲の良い友達がいる、楽しく学校生活を送っている。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
教職員	1 生徒は充実した学校生活を送っている				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	
生徒	① 自分には、仲の良い友達がいる、休み時間などを楽しくすごしている。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	
生徒	7 必要があるとき、先生たちは相談にのってくれる。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	
保護者	7 学校は、保護者や子どもの相談にのったり、願いに応えようとしている。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
教職員	7 生徒や保護者の意見に対し、カウンセリングマインドをもとに傾聴し、指導支援を行っている。				
	している	まあまあしている	あまりしていない	していない	
生徒	9 自分は、思いやりの心や生命、社会のルールを大切に、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。				
	している	まあまあしている	あまりしていない	していない	
保護者	9 学校は、思いやり、生命の大切さ、そして社会のルールなど、心の教育を大切にしている。				
	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
教職員	9 思いやり、生命の大切さ、そして社会のルールなど、心の教育を大切にしている。				
	している	まあまあしている	あまりしていない	していない	

◇学校生活について

学校が生徒たちにとって安全で安心な環境になる取り組みの成果が感じられる。“学校生活の楽しさ・充実度”に関する質問項目へのポジティブ回答が生徒で93.5%、保護者88.2%である。一方で、「学校は楽しい」に対して「まったく思わない」の回答をした生徒が1%いる。また、「自分には仲の良い友達がいる、休み時間などを楽しくすごしている」の質問項目に対し、97.1%がポジティブ回答であるのに対し、「まったく思わない」の回答をしている生徒が0.3%いることも見逃せない。アンケート集計を終えたところで早急にその結果を教職員で共有し、早期対応することで生徒のSOSを受けとめ生徒へのサポートを図っている。

学校が安全で安心な環境であるために、教育相談体制の充実も大切な要素である。“相談体制”に関する質問項目では97.8%の生徒がポジティブ回答をしており、最も高い数値の1つである。保護者85.5%と同様に高い数値を示している。「必要があるときに先生たちは相談にのってくれる」の質問項目に対し、「強くそう思う」57.7%であり、「まったく思わない」が0%という数値は、日頃から生徒に寄り添う姿勢を大切にする教職員の姿勢によるものと言える。

“社会規範への意識や豊かな心”に関する質問項目への生徒のポジティブ回答（「している」71%「まあまあしている」27%）の高さは、本校生徒の特性を示していると思われる。規範意識の高さ、生命尊重、正義感など道徳性の高さを示していると考えられる。この項目には保護者も（86.6%）と高い数値を示している。

以上、学校診断調査の集計結果からでした。